

職場実習計画書・振り返りシート

① 自職場における認知症ケア実践上の課題

ワーク1

② 実習協力者（指導対象者）について

職 種：

資 格：

勤務年数： 年 認知症ケアの経験年数： 年

認知症ケア実践上の課題

（実習協力者の認知症ケア実践上の課題について、1人の利用者さんを思い浮かべて記入します）

ワーク2

③ 取組み内容＊評価対象項目と評価方法の詳細については、認知症ケア能力評価表に記入

a) 評価対象項目の検討 ワーク3-1
認知症ケア能力表に記入

ワーク3

b) 評価方法及び評価の実施 ワーク3-2
○知識・技術・考え方を評価する手段および実施日

c) 実習協力者（指導対象者）へ評価結果を伝える＊評価結果を伝えるかどうかは各事業所との調整による

d) 指導計画の作成
認知症ケア指導計画書に記入

④ 倫理的配慮

方法及び実施日

・上司への説明

ワーク4

・実習協力者への説明と同意

・チームへの説明

⑤ 実習における目標（実習終了後の姿）

ワーク5

⑥ 実習スケジュール

取組み内容

ワーク6

実施結果

実習期間中

1 週目

2 週目

3 週目

4 週目

その他、実習期間通して取り組むこと

⑦ 実習評価

・ 目標達成状況

報告会

・ 残された課題

⑧ 指導者及び受講生からのコメント（コメントを受けた内容について記入）

()さん 認知症ケア能力評価表 記入者：

ワーク3-1

ワーク3-2

実習期間中

	ア、評価対象項目	イ、評価方法	実施日	ウ、評価結果 できている点・課題
認知症ケアの知識				
アセスメント				
介護方法				
介護評価				

()さん 認知症ケア指導計画書

記入者：

実習期間中

	指導課題	優先順位	指導目標	期間	具体的方法	頻度
認知症ケアの知識						
アセスメント						
介護方法						
介護評価						

認知症ケア能力評価表（評価項目例）

	ア、評価対象項目	イ、評価方法	実施日	ウ、評価結果 できている点・課題
認知症ケアの知識	○認知症に関する昨今の施策の動向や内容 ○パーソン・センタード・ケア等の基本理念等に関する基本的な知識 ○認知症の定義や診断基準 ○原因疾患の種類と特徴、中核症状、薬物療法等についての認知症に関する基礎知識 ○BPSD の定義、BPSD の種類と特徴、BPSD に関する要因の種類と関係、原因疾患別の BPSD の特徴等に関する BPSD に関する基礎知識等			
アセスメント	○認知症ケアへの目標の設定（BPSD への緩和だけでなく予防を視野に入れた生活目標の重要性） ○認知症ケアに必要なアセスメント視点： BPSD の種類、程度の評価、発症時の表情、行動、発言、発症時の高齢者の状態、低下している認知機能や程度、正常な認知機能、周囲の環境（住環境、刺激等）、他 の高齢者、家族、職員等との関係状態や 個々の人間関係の特徴、過去、現在の生活状況（ADL 目標、活動、生活スタイル、趣味、思考等）等			
介護方法	○医師、看護師、PT、OT 等と協力し、具体的な要因を緩和する等の調整方法 ○コミュニケーション方法 ○住環境や刺激の調整方法 ○心理的な安定、健康管理、環境適応の促進、意欲の向上等を実現するための活動機会の提供方法 ○他的高齢者、家族、職員との関係状態に応じた関係性の調整方法等			
介護評価	○BPSD の頻度や重症度の変化 ○高齢者の心理状態の変化 ○高齢者の生活状況や質の変化等			

〈面接結果〉

行動・心理症状（BPSD）への介護に必要な知識 2

項目	ポイント	内容
行動・心理症状（BPSD）への介護	行動・心理症状（BPSD）への介護目標	行動・心理症状（BPSD）の緩和だけでなく予防を視野に入れた、生活目標の重要性の理解
	行動・心理症状（BPSD）への介護に必要なアセスメント視点	行動・心理症状（BPSD）の症状の様態 発症時の表情、行動、発言 認知機能及び障害の種類と程度 心理状態や気持ち 身体機能、健康状態、体調 周囲の環境状態（住環境、刺激） 他者との関係性（他の高齢者、家族、職員等） 生活状況（ADL、日課、活動、生活スタイル、趣味、嗜好等）
	行動・心理症状（BPSD）への介護に必要な方法	身体面への介護 コミュニケーションの方法 環境調整の方法 活動支援の方法 人間関係調整の方法
	行動・心理症状（BPSD）への介護の評価	行動・心理症状（BPSD）の頻度や重症度の変化と測定方法 行動・心理症状（BPSD）発症要因の変化と測定方法 高齢者の心理状態の変化と測定方法

行動・心理症状（BPSD）への介護に必要な技術

ポイント	内容
行動・心理症状（BPSD）への介護目標の立案	行動・心理症状（BPSD）への緩和だけでなく、高齢者の希望や必要性を考慮した生活目標と、目標達成のための生活支援目標が立案できる。
行動・心理症状（BPSD）への介護に必要なアセスメントを実践できる	行動・心理症状（BPSD）の種類、程度を評価できる
	発症時の表情、行動、発言を観察し、評価し、発症時の高齢者の状態把握ができる
	低下している認知機能や程度と、正常な認知機能の評価できる
	行動・心理症状（BPSD）発症前後の感情、気持ち、気分等の心理状態を評価できる
	疾病、健康状態、体調、身体機能を医師、看護師、PT、OT 等と協力して評価できる
	行動・心理症状（BPSD）に影響している周囲の環境（住環境、刺激等）を評価できる
	ほかの高齢者、家族、職員等との関係状態や個々の人間関係の特徴を評価できる
行動・心理症状（BPSD）への介護に必要な方法を実行できる	過去、現在の生活状況（ADL、日課、活動、生活スタイル、趣味、嗜好等）を把握できる
	医師、看護師、PT、OT 等と協力し、身体的な要因を緩和、調整することができる
	行動・心理症状（BPSD）の要因のアセスメントや心理状態を安定させるためのコミュニケーションができる
	行動・心理症状（BPSD）の要因改善や、快適な生活支援のための住環境や刺激の調整ができる
	心理的な安定、健康管理、環境適応の促進、意欲の向上等を実現するための活動機会を提供することができる
介護実施後の評価ができる	ほかの高齢者、家族、職員等との関係状態に応じた関係性の調整ができる
	行動・心理症状（BPSD）の頻度や重症度の変化を客観的に評価することができる
	行動・心理症状（BPSD）の発症要因の変化を評価することができる
	高齢者の心理状態の変化を評価することができる